

川で学ぼう

～川とふれあう学習～

さまざまな体験で「ふるさとを学ぶ」

～自然との関わり、地域とのかかわりを大切に～



日南町立 大宮小学校

大宮小学校は、明治6年に菅沢学校として創立された古く歴史のある学校です。古くは、たたら製鉄が盛んで、川で取った砂鉄を使って、たたら製鉄を学ぶなど、川に密着した体験型の教育を行っています。4月から山上小学校、阿昆緑小学校と統合することになっています。

大宮小学校

ある日、鳥取県の地図を見ながら4年生の子ども達に「印賀川はどこから流れてくるの?」と問いかけたところ「海です。」と答えた子どもがいました。「よし、川を探検に行こう。」学校の近くを流れている川の上流、下流を確かめに行きました。そして、印賀川が菅沢ダムに流れていることを確かめました。

小学校中学年という時期は、家や学校の周りだけだった世界から身近な自然や地域、人との関わりにより少しずつ地域の認識を広げていく重要な時期です。

ダムの見学では、昔日野川流域が水害にあったこと、ダムが農業用水や工業用水として大切な働きをしていること。ダム建設によって沈んだ家屋や、建設工事でなくなった人のことなど教えてもらいました。中でもダムから油を流さない為の仕掛けがあるという話は、下水処理場で聞いた「油が水の大敵である」という話と重なり廃油石鹸作りへと思いは発展していきました。印賀川だけではなく日野川源流の

町の一人として広く町民の皆さんにもアピールしたいと声を上げたところ、日南ふる里祭りで販売させてもらうことになりました。売上金はユニセフに募金することでボランティアクラブのみんなと一緒に声を響かせ、環境を守ることをアピールしながら社会参加もできる学習ができました。

また、日南町100キロマラソンには全国から毎年多くの人が集まります。「こんな山奥になぜ?」そんな子ども達の疑問を解決する為、実際にコースを車で走り、事務局を訪れて1,000人のボランティアの取り組みを聞きました。「日南町の景色ってすばらしい。日南町の人もすばらしい。」「この景色を見て走った人たちが、また来たいと思うんだ。日南町のすばらしさに自信を持った子ども達は、100キロマラソンの為に心から歓迎する横断幕を作ります。遠く韓国から来る人を応援しようと韓国語を覚えます。

このように、自然や地域とのかかわりを大切にしたい教育をすることで、ふるさとに誇りをもてる大人になって欲しいと願っています。



ダムの見学



油を流さないための網場



廃油石鹸の販売



たたら体験



鉄のかたまり(鍋)

大宮地区を流れる日野川の支川「印賀川」は川底が黒く、川の中を磁石でさぐると砂鉄がたくさんとれます。総合学習のひとつとして、川で集めた砂鉄を地元のたたら職人さんの協力のもと「鉄づくり体験」を学びました。20リットルオイル缶の内側に耐熱の粘土を詰め込んだ釜に木炭を入れ、何時間もかけて炭と木炭を交互に投入し、7.5Kgの鍋(ケラ)が出来た時には大歓声が上がりました。